



SANJO ROTARY CLUB

三条ロータリークラブ

週報 No. 5 2019.8.7(No.3014)

楽しいロータリーでつながろう

第2560地区ガバナー／大谷 光夫
 会 長／若槻八十彦
 会長エレクト／野崎喜一郎(クラブ奉仕A)
 副 会 長／小出子恵出
 幹 事／柳 取 崇 之
 S A A／中 條 克 俊
 会 計／西 山 徳 芳
 直 前 会 長／松 永 一 義
 会長ノミニー／明田川賢一(クラブ奉仕B)
 例会日／毎週水曜日 12:30～
 例会場及び事務局／
 三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店内
 例会場／TEL 34-3311
 事務局／TEL 35-3477 FAX 32-7095
 E-mail : sanjo-rc@cpost.plala.or.jp
 http://www.soho-net.ne.jp/~rotary/
 (〃はshiftを押しながら“へ”のキーを
 押してください)

- 本日の出席会員数:58名中42名
- 先々週出席率:84.21%

【ゲスト】

・三条雲蝶会 副会長 江畑 徹 様

【ビジター】

- ・見附RCより
 会長 小泉 勝さん
 第4分区IM実行委員長 大森直正さん
- ・米山記念奨学生
 ゴーグエンチー チュン君

【先週のメイクアップ】

- [8.5] 三条南RCへ
- ・渡辺良一さん、 落合孝夫さん、
 - ・斎藤弘文さん、 熊倉昌平さん、
 - ・神子島正樹さん、 木村文夫さん



2019～2020 年度国際ロータリーのテーマ



会長挨拶

若槻八十彦 会長



こんにちは。

先週行われました「納涼例会」には大勢の会員の皆様方からご参加をいただき、たいへん有難うございました。「マグロの解体ショー」には、存分に五感を刺激されたことと思います。親睦委員会の皆さまのお取り計らいに心より感謝を申し上げます。

ありがとうございます。

連日の暑さで少々バテ気味ですが、私はクラブの皆さんの顔を拝見すると、何だか元気をもらえる、そんな気がいたします。この週末から長いお盆休みが続きます。体調を整えていただき、休み明けには元気に例会出席をお願いいたします。

本日は見附ロータリークラブより、9月14日土曜日に開催されます「第4分区インターシティ・ミーティング」の実行委員長、大森様とクラブ会長の小泉様がいらしております。後ほど「IM」のPRをしていただくことになっていきますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

尚、「IM」は新入会員の皆さんには義務出席とさせていただきますので、何とぞよろしくお願い申し上げます。

そして本日の卓話は、三条雲蝶会の副会長、江畑様からお話をいただきます。江畑様どうぞよろしくお願い申し上げます。

次に、三条クラブ会員の皆さまにご報告があります。当クラブは前年度の松永年度におきまして、33回目の「米山功労クラブ」の表彰をいただきました。この表彰は、クラブ及び個人・法人の全ての特別寄付金が対象で、累計額が100万円を超える毎に表彰されるものです。つまり当クラブ会員の62年間に亘る寄付累計額が3300万円を超えたということで、三条ロータリークラブに対してこの賞をいただいたということでございます。

それに加えましてロータリー米山記念奨学会より当クラブ、小越会員に「第10回米山功労者メジャードナー賞」の表彰品が届いております。小越会員個人の米山寄付累計額が100万円を超えたことに対する表彰であります。そして、菊池会員に「第2回米山功労者マルチプル賞」が届いております。これは菊池会員個人の米山寄付累計額が20万円に達したことへの表彰であります。小越会員、菊池会員には心より敬意を表します。ありがとうございました。

今日は第1例会で、もりだくさんの内容ですので、以上で会長あいさつを終わります。

幹事報告

柳取崇之 幹事



◎国際ロータリー日本事務局より

「8月ロータリーレートのご案内」

8月1日より 1ドル=108円（現行）

◎地区事務所より

「ガバナー月信 2018-19年度最終号および8月号発行のお知らせ」

◎地区事務所より

「夏期休業のご連絡」

大谷ガバナー事務所および地区事務所の休業期間は、8月12日(月)～16日(金)です。

◎地区事務所より

「2019-20年度地区補助金オリエンテーションのご案内」

日 時 8月24日(土) 10:00～12:00

会 場 ホテルオークラ新潟

◎地区事務所より

「第1回ロータリー財団セミナーのご案内」

日 時 8月24日(土) 12:00～16:30

会 場 ホテルオークラ新潟

◎地区事務所より

「大谷年度ロータリー防減災セミナーのご案内」

日 時 8月31日(土) 13:00～16:00

会 場 長岡防災アーカイブセンター
きおくみらい

◎地区事務所より

「アクトの日 仮登録のご案内」

日 時 9月8日(日) 9:10～13:00

会 場 白根地域生活センター

◎地区事務所より

「第19回ライラ研修のご案内」

日 程 10月18日(金)～20日(日)

会 場 舞子高原ホテル

研修テーマ リーダーの資質を考える

◎新潟南RCより

「創立60周年記念式典のご案内」

日 時 11月9日(土) 12:30～17:30

会 場 ホテルオークラ新潟

◎大谷ガバナー事務所より

「2019-20年度 ホノルル世界大会参加のお願い」

日 程 2020年6月6日(土)～10日(水)

◎三条市市民部環境課より

「三条スポGOMI大会のご案内」

日 時 9月7日(土) 8:00～11:00

集合場所 三条市役所市民広場

ニコニコBOX

見附RC 大森直正様、小泉勝様

9月14日、見附での第4分区IM、多数のご出席宜しくお願い申し上げます。

若槻八十彦会長

卓話講師 江畑様、本日はよろしくお祈りします。

見附RC IM実行委員長 大森様ようこそいらっしゃいました。

野水靖之さん

先日の納涼会では、多くの皆様よりご参加頂き有り難うございました。おいしそうにマグロを楽しまれている皆さんの顔を見て、ホッとしました。

船越良則さん

8月4日、ローターアクトクラブの商店街の清浄活動に参加しました。暑い中みんながんばってました。

吉井直樹さん

暑中お見舞い申し上げます。やっと夏らしくなってきました。夏は夏らしく、冬は冬らしくが、経済には良いらしいですね。体調には気を付けてお盆のお休みを過ごしましょう。

松永一義さん

夏まつりも終わりました。元気で、この夏を乗り越えたいと、毎日酒を飲んでます。江畑様の卓話楽しみにしてます。

樺山 仁さん

連日の暑さで体調が心配です。本日の江畑様の卓話に期待しております。

衛藤泰男さん

8月4日、三条ローターアクトクラブの街中ゴミ拾いに参加しました。当日は朝から暑くて暑くて大変でした。江畑様、卓話ありがとうございます。

渡辺勝利さん

暑いですね!!
卓話ありがとうございます。

斎藤弘文さん

三条夏祭りも天候に恵まれ素晴らしい祭となりました。

小出子恵出さん

熱中症に御留意下さい。

伊藤寛一さん

暑いので身に気をつけて下さい。江畑様、卓話宜しくお願いします。

関川 博さん

納涼会のサプライズ、本当に楽しい時間を過ごせました。野水親睦委員長ありがとうございました。雲蝶会 江畑様、卓話楽しみです。

渡辺良一さん

皆様くれぐれもご自愛下さい。夏休み、孫が3人来ています。嵐の様です。

野崎喜一郎さん

暑い日がつづきます。ウナギを食べて元気になりましょう。

菊池 渉さん

猛暑の中で「お盆」が来そうです。欲はへらないのに、体力、気力がついていきません。

荻根澤隆雄さん

暑中お見舞い申し上げます。

中條克俊さん、 柳取崇之さん、 高橋 司さん、
中村信一さん、 金子俊郎さん、 近藤雄介さん、
木村文夫さん、 小越憲泰さん、 杉山幸英さん、
小林卓哉さん、 矢吹信太郎さん

三条雲蝶会副会長 江畑 徹様を歓迎致します。
本日は卓話ありがとうございます。

8月7日分 ￥ 29,000
今年度累計 ￥ 191,000



米山記念奨学生チュン君へ奨学金の授与



「100%出席賞」14年 中村和彦 会員



ロータリー米山記念奨学会より、
感謝状と記念品の授与

三条ロータリークラブ
「第33回 米山功労クラブ感謝状」

小越憲泰 会員
「第10回米山功労者メジャードナー感謝状・ピンバッジ」

菊池 渉 会員
「第2回 米山功労者マルチプル感謝状」



見附 RC
第4分区 IM 実行委員長 大森直正様、会長 小泉 勝様より、

2019~2020 年度 国際ロータリー第 2560 地区

「第4分区 IM」開催のご案内



- | | |
|-----------|---|
| 開催日 | 9月14日(土) |
| 会場 | ホテルつるや(見附市本町4-3-19 TEL0258-62-6511) |
| 開催テーマ | 「ポリオ撲滅運動について知る」
～ロータリーとロータリアンが果たしている役割を広く伝えるために～ |
| タイムスケジュール | 13:00 登録受付
13:30 開会
14:00 講演「ポリオ撲滅に向けたロータリーの歩み」(仮)
講師 ポリオ撲滅(根絶)ゾーンコーディネーター
松本 祐二 様(益田西 RC)
16:00 懇親会
17:30 閉会 |

「卓話」

「三条の石川雲蝶」



三条雲蝶会 副会長 江畑 徹 様

三条雲蝶会副会長の江畑徹と申します。

この度、三条ロータリークラブ様の卓話という伝統ある席にお招きいただき、真に光栄に思っております。本日は特別に見附のロータリークラブの方もお出でとのことで嬉しく思います。ついこの間も見附の団体様を石動神社にご案内したところです。

まず初めに三条雲蝶会について自己紹介いたします。三条雲蝶会は三条にある石川雲蝶作品についてボランティアガイドする団体として2009年12月17日に発足したものです。三条市経済部営業戦略室が石川雲蝶ガイド養成講座を主催し、35名の参加者のうち16名でスタートいたしました。今年がちょうど設立10周年になります。現在10周年企画も準備中です。もろもろ詳細は画面に出ておりますスライドをご覧ください。

次のスライド、左上の写真は去年新潟日報に載ったものです。福島の方々が八十里越えツアーで見学に来られたのをご案内したときのものです。お陰様で好評のようで、今年も26日にまた福島の方々が八十里越えツアーで来られます。八十里越えの道路が完成すると、背中合わせになっている福島と三条が快適につながりますが、雲蝶も三条の魅力の一つになるべく前宣伝中といったところです。

新聞記事の下は地元三条の人たちをご案内しています。お子さんから若いお母さん、お父さん、おばあちゃん、おじいちゃんまで老若男女おられます。写真右上は夏休み企画で本成寺客殿で会員がわかりやすくおもしろく“語り”雲蝶さんをお話しているところです。本成寺管主もいっしょにお聴きいただいています。

その下は今年の雲蝶命日の墓参です。雲蝶を見に来られるお客さんは全国各地に及びます。この間も横浜から来た二人組のお客さんが魚沼～長岡の雲蝶を見たあと、三条市内のホテルに一泊され、翌日午前、午後とたっぷり時間をかけて本成寺、石動神社をご案内しました。

団体の皆さん、個人の方、三条雲蝶会ではガイドの依頼がきて、今まで一度も断ったことはありません。

さて、今まで雲蝶会のことを自己紹介してきましたが、皆様三条のそれも有力者の方ということで、石川雲蝶のことは、ある程度ご存知という前提でお話してきました。

ここから本題で、雲蝶のことをお話していきたいと思えます。

雲蝶のこと“越後のミケランジェロ”とか“日本のミケランジェロ”といわれることはお聴きになったことがあるかと思えます。スライドは魚沼の西福寺開山堂の大作、天井彫刻「道元禅師猛虎調伏の図」です。天井一杯に彫られた大きさと強烈な彩色で圧倒的です。雲蝶といえまますぐこれです。思い浮かべられると思えます。となりに配置したのがミケランジェロのシステイナ礼拝堂奥壁の「最後の審判」です。次のこのスライドは建物内部の全景です。

宗教建築の堂内いっばいに展開された芸術ということで共通性を感じさせるのではないのでしょうか。最初に“越後のミケランジェロ”という言葉を使ったのはこの方ようです。

次に、石川雲長蝶とは何者②として、三条と雲蝶ということでお話いたします。

スライドには、雲蝶の生涯の骨子を書いております。骨子、概要を書くと必然的に三条との関係が骨子そのものになります。

江戸高田村雑司ヶ谷の生まれで、江戸で幕府の御用勤めの彫り師であったこと、三条の金物商 内山又蔵に声をかけられ越後に来たこと。そして越後三条で四ノ町酒井弥助の娘くにと結婚、婿養子となり、長女なみ、長男儀平の一男一女をもうけたこと。つまり、三条の女性と家庭を築き、そこを拠点に越後各地に出かけて行って作品を残した、ということなのです。ですから、魚沼の方でも“三条安兵衛”と呼ばれていたということ。安兵衛が雲蝶の本名です。

そして、1883(明治16)年69歳で亡くなり、お墓も本成寺にあるのです。

正直に言って私も周りの人に雲蝶のことを知っているかと聞いてみて、知っている人でも、まず大概の人が「ああ、魚沼の方の…」といった反応なのです。私はこれは非常に残念に思えます。今お話ししましたように、雲蝶の人生の基軸は三条にあるのです。

それが「雲蝶＝魚沼」という印象があるのは、西福寺の「道元禅師猛虎調伏の図」があまりにインパクトがあり、一方、三条にも本来本成寺本堂の欄間の大作があったのですが、火災で焼失してしまったという理由もあるでしょう。

しかし、残っている三条の作品はどうでしょうか。珠玉の傑作揃いです。

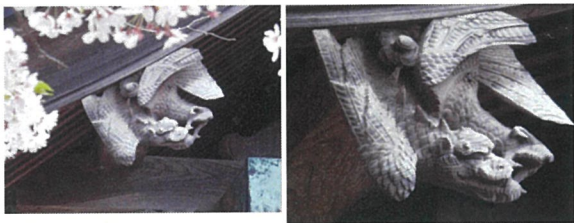
それをこれからいくつかご紹介していきたいと思えます。

まず、これは本成寺青蓮華院にあるものです。欄間の作品で連作ですばらしいものです。ここに載せているのも松の幹の様子や松葉などを見てください。



しかし、スライドにこれを載せたのは、右側の刻銘に注目ください。「江戸高田住」とあります。そして「彫工石川安兵衛源雲蝶 □□（石川雲蝶の印）」。おそらく、内山又蔵と呼ばれてきたものの、この時はまだ越後三条に移り住むとまでは考えていなかったのか、江戸高田に住むものだが越後には仕事をしに来たという段階だったのではないのでしょうか。越後での仕事の最初期のものと思われる。そういう意味でも貴重な作品です。『越後の名匠 石川雲蝶』（新潟日報事業社）の著者 木原尚さんはほぼ同時期の作品がある燕の本徳寺に残る文書から1848(天保13)ころと推定しています。年齢は28歳。江戸で20代のうちから相当な技量の持ち主として既に評判が高かったというのがうなづけます。是非、青蓮華院で他の作品も見てくださいと思います。

次がこれです。本照院の「飛竜」。



雲蝶作品のうち、たった一つだけ選べといわれても大変困るのですが、何かの事情でどうしても挙げざるえなくなって、エイヤでこれを選んでも、選んだあとで決して後悔しないと言えるのがこの「飛竜」です。お客さんに「これなんだと思いますか？」お聴きして結構な確率でかえってくる答えに「鷹」とか「鷲」「鳥」という答えです。ある意味でいい線行っている答えです。正解は「龍」なんです、が、「鷲」や「鷹」のように見える。意外と「龍」という答えは少ないのです。何故「鷲」「鷹」など猛禽類に見えるかということ、猛禽類の羽が生えているからです。一般に東洋の龍では羽は生えていず、胴体だけで空を飛んでいます。実は東洋の龍でも羽の生えた龍自体はいるのですが、門の軒下、破風飾りにこのような姿の龍を彫るところが、やはり、雲蝶の創造性が光を放っているところだと思います。この龍が門の裏表に四つ彫られています。こうして、龍が舞うように飛び交って仏法、お寺を守っているのです。

次に同じ龍で、石動神社の向拝の龍です。



これは羽のない東洋の普通の龍です。これも神社の向拝という最も正面で神社を悪や邪気から守るために彫られています。真に堂々とした凄まじい迫力のある龍です。これではどのような邪悪なものも退散するでしょう。この凄まじさはどこからくるかというと、口の周りのトゲや風に波打つ鬃などの彫りの鋭さです。材料は櫟なのですが、現代の木彫り彫刻の専門家によると、櫟というのはこうした鋭い彫りを入れるとポキポキと折れやすいのだそうです。ここにも雲蝶の超絶技巧が効いています。龍の下に千鳥と波が彫られています、千鳥や波の方が浮き上がる形で彫られており、地の方は真っ平になっています。素人の私から見ると、こうした技術にも驚いてしまいます。

私は、本成寺・本照院の「飛竜」と石動神社向拝の「龍」は、雲蝶作品の中だけでなく、様々な龍の表現の中で、それぞれタイプの違う龍の二大傑作と思います。

次のスライドが、いきなりお墓です。お墓については最後に話をすべきなんじゃないの？と思われるかもしれませんが、ここへもってきたのにはわけがあります。まず、お墓そのものについて説明いたしますと、「石川雲蝶之墓」と彫られているのは、雲蝶のひ孫にあたる、酒井喜久さん(東京在住)が1979(昭和54)年5月に建てられたものです。

では、亡くなった時のお墓はどれか？ 左となりの苔むした小さな墓標のようなものがそれです。

「雲蝶は彫刻する代金としてどれくらいもらっていたのか？」という質問を受けたことがあります。それをはっきり示す史料をわれわれ知らないのですが、正確なお答えできないのですが、当初の小さなお墓から察するに、そんなにもらってはいなかったのではないかと推察します。

さて、この話をここに持ってきたのは、長岡造形大の先生で木を主な素材とする現代抽象彫刻の作家でいらっしゃる小林花子先生が、「少なくとも素材に関しては相当に贅沢をさせてもらっていたのではないかとおっしゃっていたことを思い出すからなのです。雲蝶の技量もあるけれど、実作者として、素材の良質さと道具の良さが先ほどのような鋭く精巧な彫りにも貢献しているという見解でした。木というのは、生きていた状態の元々の良さもあるわけですが、切ってから人間が使う材料として良いもの

にしていく工程という部分もあります。たとえば、乾燥させるにしても、中の樹液の浸透圧との関係から水につけて乾燥させるなど。素人の常識からすると、乾燥させるのに水につけるなど実に驚きです。

つまり、そうした工程を上手に経たものが良い素材なのです。彫り賃、現代風にいうとギャラといったものはそうもっていないかった。しかし、素材と道具に関しては非常に贅沢を求めることが受け入れられていた。そういう環境を作っていたのは、雲蝶を招いた金物商の内山又蔵や石動神社ふもとの吉野屋の木原庄屋を中心とした檀徒、氏子だったのではなかないかと思われます。

次は本成寺静明院の向拝「黄安仙人」です。



ここで注目していただきたいのは「波」の表現です。黄安仙人の周りの逆巻く波。右の上が「関東に行ったら波を彫るな」と言われた波の表現に長けた、雲蝶より50年ほど古い彫り師武志伊八郎。通称「波の伊八」の「波に宝珠」です。(千葉県いすみ市行元寺)。そして北斎の有名な「神奈川沖浪裏」です。海外では「グレートウェーブ」と言われ「モナリザ」を越えるという評もあるそうですが、この波は伊八の影響を受けたと言われています。私は雲蝶の波は北斎の波を彫刻にし立体化したもののように感じられます。嘸みつくような波頭の激しさが実に絵画と彫刻でそれぞれ表現されている。三人の生没年を並べると、伊八(1751宝暦元～1824文政7)、北斎(1760宝暦10～1849嘉永2)、雲蝶(1814文化11～1883明治16)となります。はっきり影響関係を示す証拠はないものの、三人とも勉強熱心であることを考えると、伊八(彫刻)→北斎(絵画／版画)→雲蝶(彫刻)といった影響関係は十分に考えられるのではないのでしょうか。

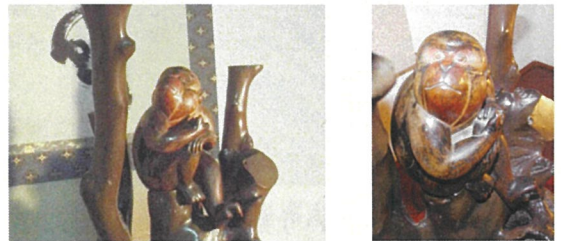
次が「神功皇后と武内宿祢」石動神社脇障子です。



神功皇后は『日本書紀』『古事記』に出てきますが、実在は確認されていない伝説と歴史のあわいに

ある人物です。武内宿祢も同じで、五代の天皇に仕えたということで足し合わせると約300年近く生きたということになるそうです。ただし、神功皇后の子は応神天皇で実在が確認されています。神功皇后は朝鮮半島に遠征した人物とされています。この作品はその時のことをテーマにしたもので、一般的な画題として浮世絵などにもたくさん取り上げられています。スライド右側の二つがその例です。このように、朝鮮半島に自ら攻め込んだということで、鎧兜を付けた凛々しい女武者の姿で描かれるのが普通のようなところです。ところが、雲蝶の作では赤ちゃん＝応神天皇に授乳している姿が描かれています。実は攻め込む時既に懐妊していたのを石の帯で押さえつけ、無事帰国してから誕生した赤ちゃんにおっぱいをあげているところを描いているのです。武内宿祢もほほえましそうに見ています。なぜ一般的な鎧兜の凛々しい女武者で描かなかったのか？ 本成寺・本照院の「飛竜」でも見たように、本来定型的な画題でも雲蝶はパターン通りではない表現をします。常に独自のビジョンがあるのです。そこに職人技で技巧的に優れているだけでない、芸術家雲蝶がいるように思います。この「神功皇后と武内宿祢」では、松の木に見られるようないつもの雲蝶らしい力強く深く鋭い彫りと神功皇后の乳房のふくらみの柔らかい曲線と両々あいまって素晴らしい作品世界になっていると思います。技術だけがあるのではなく、独自の世界とそれを表現する技術というものが如実に見られる傑作だと思います。この作品はまた、この画題でなぜこの場面を描いたのか、雲蝶の人柄まで思いを馳せてしまわせるものももっています。

次が有名な、本成寺・蓮如院の「柿の実をもつ猿」です。



新潟大学人形学部教授原直史氏撮影

猿が腰かけている木はサルスベリの自然木で、猿は樗で上にのっています。柿の実も元は組木で右手に持っていたのですが、なくなってしまったようです。子供が遊んでいるうちになくなった、などともいわれます。ほんとにどうかわかりませんが、それくらい雲蝶が日常的に親しまれていたような話で、私はほほえましさを感じます。

この猿、手に持った柿の実のほうを見ていないで、上の方を見上げています。上の方の何を見ているのでしょうか。「ああ、柿の実、木の一番てっぺんにまだ一つだけ残っている」。あるいは、「柿の

実、もう一個もないや。残っているのは葉っぱが一枚だけだ」。また、カラスがカアカアと鳴いて飛んでるのを見ているのか。晩秋の寂寥感を感じるとともに、猿の暖かみのある可愛らしい姿形からほっこりした気持ちにさせられます。右の写真は猿の表情を正面から撮ったものです。新潟大学人文学部の原直史先生が撮られたものです。『雲蝶の時代の江戸と越後』という題で講演をしていただいた時、事前に三条の雲蝶を見ていただきました。その時先生が撮られたものです。どことなくユーモラスでかわいらしい。猿だけでなく猿のまわりの空間も含めて独自の世界が広がっています。猿の大きさは30センチもあるかどうかという小さなものですが、正に珠玉の傑作と思います。

実はわれわれ雲蝶会の人間も、当初俳画の世界のような枯淡の味わい、猿の柔らかい曲線などから、なんとなく円熟の境地を感じて晩年の作だろうと思いこんでいました。ところが、写真家の木原尚さんの指摘で、猿のお尻にある刻銘の書体が、さきほど見ていただいた越後に来た最初期の青蓮華院の、「江戸高田住…」のあの書体と似ている、「石」の字の上の横棒がはっきり一のように長くなくて、ほとんど点のようになっている。よって、若いころの作品だということです。確かに石の字の書体を見るとそっくりです。もう少し後になると横棒がはっきり横に伸びています。

これが若い頃の作品となると、20代で青蓮華院の作品の鋭く精巧な彫りと猿の柔らかい曲線的な表現力を合わせもっていたということで舌を巻くばかりです。

次がまた石動神社に戻って、拝殿欄間の「源頼光四天王の蜘蛛退治」です。



欄間作品は明治5年という刻銘があり、1872年、雲蝶58歳の作ということになります。まだ晩年とはいえ、エネルギーと円熟の頂点の作品と言えます。実にしっかりした緻密な彫りで顔の表情も生き

生きとして、全体として大きな動きのあるダイナミックな世界が現出しています。58歳の雲蝶のそれまでの全てが結晶した雲蝶の最高傑作ではないでしょうか。

どれもこれも傑作だといってべた褒めしているようですが、雲蝶をガイドしながら何度も繰り返して見ていると、結果としてそうなってしまいます。だから、どれか一つ選べと言われても困るのです。

さて、最後に本成寺牛の間の「赤牛」です。



牛の間ではこの「赤牛」の隣に白い大きな牛の彫り物があります。こちらは弟子の北村久助の作です。本来これと同じくらいの雲蝶作「大牛」があったのですが、雲蝶の没後10年の1893(明治26)年の火災で焼失してしまいました。長男儀平は父の仕事が本山になくなってしまふことを残念に思い、家にあったこの「赤牛」を寄贈しました。刻銘から1877(明治10年)制作で雲蝶63歳の時のものとなります。木目を生かし、あばら骨が浮き出て尾骶骨が波打っているなど、今日の食用のため太らせた牛とは違う痩せ牛のリアルさと、折り曲げられた足と蹄の力強さ、威厳に満ちながらも慈愛を感じさせる目。また繰り返してしまひますが「傑作」です。おそらく確認されている雲蝶作品の最後のものでしょう。

このように、越後に来てからの最初期の作品から最晩年の作品まで、その間、壮年期、円熟とエネルギー絶倒期の作品と、多彩な傑作が三条には残っています。本成寺火災で多くの大作が失われたのは真に残念です。しかし、これだけの素晴らしい作品が残されています。残された珠玉の傑作だからこそ、私にはますますいとおしく思えます。

本日紹介しきれなかった作品はまだまだあります。是非、直接御覧に行かれて直に雲蝶の素晴らしさを味わっていただけたら嬉しいです。

三条の皆様、三条の雲蝶は本当に素晴らしいです。

次週例会 8月28日 「外部卓話」第一コンピュータ印刷(株)
代表取締役社長 白倉 猛 様

次々週例会 9月4日 「国際大会報告」2018-19年度
地区国際奉仕委員長 小越憲泰 会員

